

ほぼたきHP版

大分大学教育学部

附属小学校

平成29年5月30日



本校では小中連携して外国語活動に力を入れています。研究は今年で3年目に入りました。小学校の教員の中には「英語が苦手」という人が多く、小中連携が始まった当初はなかなか前向きに取り組むことができませんでした。しかし、中学校の生徒の様子や先生方から、英語を話すことよりも英語を使ってコミュニケーションをとることの大切さ、コミュニケーションの土台となる信頼関係こそが大切だということを学ばせていただき、今ではみな堂々と授業ができるようになってきています。

今月の1日は今年度最初の小中連携の会議の前にお互いの授業を見合いました。

附属小中学校の外国語のアドバイザーは本年度も池田裕佳子先生にお願いしております。池田先生は大分県のグローバル人材育成推進委員をされておりますが、現在は東京オリンピック、パラリンピックの組織委員会のメンバーとして全国（全世界）を飛び回っていらっしゃいます。1日は益戸学級の授業を中心にいただきましたが、5年1組の子どもたち、T1の益戸先生、T2の秦先生の生き生きとした様子を大絶賛して下さいました。



ニックネームで自己紹介をする二人。「松潤」ではなく「益順」と「秦潤」。



授業を見に来て下さった中学校の先生と英語で会話する一幕も。

ほぼたきHP版

大分大学教育学部
附属小学校
平成29年5月30日

先日も本校に新しく赴任された先生方の学級を中心に参観、指導をして下さいました。私たち教員も「常に学び続ける姿勢」を大切にしています。教育にはある意味「完璧」はないと思います。子どもたちに教えることを通して私たちもまた、多くのことを学んでいます。池田先生にはこれからも附属の学びを支えていただきたいと思います。



積極的なやり取りがあらこちらで見られました。



笑顔がとても素敵。コミュニケーションの基本ですね



先生によるでもストレーションも外国語活動ではとても大切です。

